

## 博士論文最終結果報告書

看護学研究科	学籍番号 氏名	186102 坪井 りえ
論文題目 市町村福祉部門に配属経験のある保健師を対象とした職業的アイデンティティの 発達促進に向けたジレンマの経験を振り返る研修プログラムの開発		

### 審査委員

区分	職名	氏名
委員長	教授	山下 暢子
委員	教授	宮崎有紀子
委員	教授	石川 良樹

### 論文の要旨

<p>本研究の目的は、福祉部門に配属経験のある保健師を対象とした職業的アイデンティティの発達支援に向けた研修プログラム案を作成し、展開、評価する事で研修プログラムの有効性を検証することである。</p> <p>研修の対象者を市町村福祉部門に配属経験のある保健師とし、次の2段階に分けて研究を行った。第1は&lt;研修プログラム案を作成する段階&gt;であり、第2が&lt;研修プログラム案を展開し、評価する事で研修プログラムの有効性を検証する段階&gt;である。</p> <p>第1&lt;研修プログラム案を作成する段階&gt;：文献検討に基づき、トランジション中範囲理論の枠組みを用いて研修プログラムの内容を作成した。保健師の保健部門から福祉部門へのトランジション（移行）によるジレンマの経験を振り返るリフレクションをとり入れた個別オンライン研修案を作成した。</p> <p>第2&lt;研修プログラム案を展開し、評価する事で研修プログラムの有効性を検証する段階&gt;：ネットワークサンプリング及び関東地域市町村に依頼文を送付し、参加の申し出のあった12名を対象に、研修プログラム案を展開した。</p> <p>研修プログラム案について、プロセスとアウトカムの評価を行った。プロセス評価は、①トランジション中範囲理論の反応パターンのプロセス指標の評価、②リフレクションの評価、③目標達成状況の評価により行った。アウトカム評価は、研修前後で、行政保健師の職業的アイデンティティ尺度の総得点を比較し、検討した。</p> <p>個人の評価としてプロセス評価及びアウトカム評価を行った後、全員分を統合した。次にプロセス評価とアウトカム評価をジョイントして示した。アウトカム評価の結果、12名中2名の行政保健師の職業的アイデンティティ尺度の総得点が減少したものの、残る10名の総得点が増加した。この結果は、プロセス評価の結果と概ね一致していた。</p>
---

考察の結果は、作成した研修プログラムが、福祉部門に配属経験のある保健師の職業的アイデンティティの発達促進に一定の効果を持つ可能性を示した。福祉部門の保健師を対象とした研修機会は少ないため、作成した研修プログラムは活用可能である。また、開発したプログラムの活用が、保健師のキャリア成熟に向け、系統的な人材育成への機会となる、と期待できることも示唆された。

#### 論文審査の結果の要旨

令和 5 年 6 月 29 日、審査員全員出席のもと、提出された博士論文に関する口述試問を実施した。審査基準 3) 研究題目に関する十分な知識・概念が検討され、用いられているか、8) 既存の研究方法を正確に適用できているか、10) 結果と考察から妥当な結論が導きだされているかに関連する次の①②③について口頭試問を行った。

- ① 本研究の主要概念「職業的アイデンティティ」「ジレンマ」「健全なトランジションへの移行」の関係
- ② 研修前後の尺度総得点を比較する際、1点でも増減があれば「増加」あるいは「減少」と解釈した根拠
- ③ 尺度得点が研修前後で上昇したことを理由に、研修が「一定の効果を認めた」と断言して良いのかという疑問に対する研究者の見解

このうち③に対して、今後の課題であると答えがあった。しかし、①については、まだ十分には言語化できていないと回答し、②に対しては明瞭かつ十分には説明できなかった。そのため、主要概念の関係を明示し、一貫してその関係に基づきながら表現する必要性、尺度得点を正確に解釈する必要性などを学生とともに確認した。

令和 5 年 12 月 22 日、審査員全員出席のもと、改めて提出された博士論文に関する口述試問を再度実施した。論文の指摘事項に関する内容は修正されていた。①本研究の主要概念間の関係、②尺度得点の解釈を中心に討議を行い、適切に回答がなされた。そこで、審査委員全員がすべての審査基準を充たしていると判断した。

令和 6 年 2 月 8 日、看護学研究科全教授出席のもと、最終審査を実施した。研究者は、画面を用いて、ほぼ規定時間で発表を行った。

発表後、主として次の①②③④⑤に関する質問があった。

- ① 研修後に行った面接時の質問内容、および面接によるデータへの影響
- ② 研修の有効性検討に対照群を置かなかった理由
- ③ 開発した研修プログラムの今後の活用方法
- ④ リフレクションを促すための教材の工夫
- ⑤ 研修後、職業的アイデンティティ尺度総得点が減少した 2 名の特性

このうち①②④⑤に対して、実際に行った研究のプロセスを丁寧に述べながら、回答して

いった。また、③に対して、開発した研修プログラムを効果的に展開するための工夫に関し、現時点で研究者自身の考えている内容を述べた。以上の発表および質疑応答の結果を踏まえ、審査委員全員がすべての審査基準を満たしていると判断した。また、本学博士後期課程のディプロマポリシーである「DP4 看護学を専攻する看護専門職として必要な高い倫理的思考力をもち、真理を探究し続ける」、「DP5 革新され続ける看護学の充実・発展に向けた研究の推進に意義を見出す」を満たしていると判断した。

以上の結果を踏まえ、最終審査同日に行われた看護学研究科教授会において本論文が本学博士論文の基準を満たしている旨、全員一致で可決された。